

## 【認知症対応型共同生活介護用】

## 1. 評価報告概要表

作成日 平成21年8月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0570907816
法人名	医療法人 寿光会
事業所名	ぐるーぷほーむ「せきがみ」
所在地	秋田県鹿角市十和田大湯字前田29番地 (電話)0186-30-3285
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1番地の1
訪問調査日	平成21年8月4日

【情報提供票より】(平成21年6月29日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 14年 12月 10日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 16人, 非常勤 0人, 常勤換算 16人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての ~ 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円・36,000円	その他の経費(月額)	660円	
敷金	有(円) <input checked="" type="radio"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(100,000円) <input type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	有(退居時)	
食材料費	朝食	300円	昼食	400円
	夕食	500円	おやつ	0円
	または1日当たり		円	

## (4) 利用者の概要(6月29日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	5名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	75歳	最高	96歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人寿光会 福永医院 田子歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営推進会議が定期的開催され、地域や利用者の家族等から要望や意見があるとスタッフミーティングにより話し合わせ、支援に活かされていた。また、2ユニットあるホームの真ん中に管理棟があり、重要なミーティングはそこで行われ利用者の不安・不信を招かないよう配慮されていた。ホームの母体が医療法人ということもあり、介護のみならず看護師等医療との連携も充実しており、利用者やその家族に安心感を与えていた。また、利用者の状況変化や折に触れて送付される管理者からの手書きの手紙は、家族から大変好評である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価時に主な改善課題として挙げられた「事業所出入口の施錠」については、玄関扉にブザーを設置して利用者の動きを把握するよう努めている。また、「申し送り等の情報伝達」についても、スタッフが両方のユニットを行き来するような勤務シフトの中で、全ての利用者について状況を把握できるよう、情報の共有に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	スタッフ全員に自己評価票を配布し、記入した内容を管理者が取りまとめ作成している。そこで見出された課題については、スタッフミーティング等で話し合わせ、日々の業務に活かされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、利用者・利用者家族の代表・地域住民・児童民生委員・行政担当者の参加を得て定期的開催している。会議では利用者の家族より「災害などの際は、速やかな避難のほか、その後の生活も考え内服薬の携帯もお願いしたい」との要望があり、非常持出し物に利用者の薬を加えるなど、会議の内容が実際の支援に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	行事の案内や利用者の受診結果報告等の際には、その都度管理者から手書きの手紙が添えられ、家族より喜ばれている。また、家族が面会等で来所した時には、直接話をして意見交換する機会を設けている。苦情や要望等は今のところないが、受付担当者や市町村窓口等が明記された用紙が掲示されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民には、事業所の内容等について、運営推進会議に参加している地区の代表から伝えてもらっている。また、利用者が以前住んでいた地域のお祭り等にはできるだけ参加し、利用者や地元とのつながりが途切れないよう配慮している。今後は、地域へ事業所自ら情報発信することやさらなる関係強化に取り組むことも期待される。

## 2 . 評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1.理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に、事業所独自に管理者とスタッフが話し合い、その結果をプラスして作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は日常業務の中でスタッフに理念を伝え、その実践を促している。また、ミーティング等を通してコミュニケーションを図り、スタッフ同士で理念の共有に努めている。		
<b>2.地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議には地域の代表が参加しており、事業所の内容等を地域に伝えてもらっている。また、利用者が以前住んでいた地域のお祭り等にはできるだけ参加し、利用者と地元の？ がりが途切れないよう配慮している。		
<b>3.理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、スタッフ全員に自己評価票を配り、各自が作成した上で取りまとめている。その中で明らかになった課題は、ミーティング等で話し合い、改善策につなげている。また、外部評価の結果は玄関先に掲示され、誰でも手に取って読むことができる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域との接点の一つと認識し、事業所の情報提供等も積極的に行っている。会議では利用者の家族より「災害などの際は、速やかな避難のほか、その後の生活も考え内服薬の携帯もお願いしたい」との要望があり、非常持出し物に利用者の薬を加えるなど、会議の内容が実際の支援に活かされている。		
6	9	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは運営やケース等に関することで、電話や訪問により連絡を密にしている。今年度4月には市担当者が変わったが、これまでと同様の機会をつくるよう取り組んでいる。		
<b>4.理念を実践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や受診結果・行事の案内・新しいスタッフの紹介等と一緒に、その都度管理者が手書きの手紙を家族へ郵送し、報告している。		管理者のこまめな手紙は喜ばれているが、個々の利用者の状況報告に加えて、事業所全体としての定期的な情報発信に取り組んでいくことも今後期待されます。
8	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「苦情・相談窓口」の担当者と外部の相談先が明記されている。また、面会に来た家族とは話をする機会を設け、その意見を引き出そうと努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動が4・10月にある。異動による利用者への心理的な影響を考慮し、事業所から異動するスタッフについてはあえて紹介せず、新しいスタッフについては利用者へ紹介しながら、早めに馴染めるよう工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内では同じテーマの研修を複数日、時間をずらしながら開催し、変則的な勤務をしているスタッフが参加しやすいよう配慮されている。また、2ユニットの事業所ではあるが、スタッフが両方のユニットを行き来するように勤務シフトを組んでおり、職員相互が教え合いながら利用者全員を把握できるよう努めている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>月1回、地域のケアマネージャー連絡会議に参加している。この会議には、地域の他事業所も多く参加しており、情報交換やケース検討の機会にもなっている。地域にはグループホームの連絡協議会がないため、同業者と交流・情報交換する機会を模索している。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族と本人のアセスメントをもとに、安心して、落ち着いて過ごせるよう気配りがなされている。また、入居する際には、利用者がこれまで使っていた物を持ち込んでもらい、できるだけ早くホームに慣れていただけるよう努めている。</p>		
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>スタッフは利用者を「介護する」という意識よりも、利用者が自分で手足を使うことを促したり、一緒に行動することを心掛けている。また、利用者から戦争体験の話や、利用者の描く絵を通じて感情を共有するなど、互いに尊重し合いながら支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしや仕事を含めたこれまでの人生経験を尊重すると共に、利用者一人ひとりが望むスタイルを聞いたり推し量ったりしながら、ミーティング等を通じて支援に反映できるよう取り組んでいる。		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人や家族の意向と現状を十分に確認し、ケアマネージャーと担当スタッフが中心に介護計画を作成している。作成後は、介護計画をスタッフ全員に回覧し、共通認識を持った上で支援にあたっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングとスタッフミーティングの際に利用者の状況を確認し、家族や利用者本人の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に見直している。また、心身の状態が変化した場合には、随時計画の見直しを行っている。		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本体法人(医療法人)の特徴を活かし、医療との連携を十分に図っており、酸素吸入器を設置したり、看護師が定期的に利用者の健康状態をチェックするなど、きめ細やかな支援がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向を確認した上で、医療機関や薬局等と連携して支援を実施している。また、薬局からは複数の薬剤を利用者毎に個別包装してもらったり、薬の包みには名前や服用時間を印刷してもらうなど、協力を得ている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合の事業所方針(看取りは行わないこと、医療機関と連携していくこと等)については、利用者が入居する際に説明し、同意を得ている。		医療連携体制や、重度化した場合における対応に係る指針等が定められているが、管理者とスタッフ間における情報共有等について、今後さらに検討することを期待します。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護について、文書が玄関に掲示されている。また、利用者個々の情報に係る重要なミーティング等は、2ユニットの中央部分にある管理棟で行い、入居者の不安・不信を招かないよう配慮されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所が中庭を囲むような建物となっていることを活かし、天気の良い日は利用者の希望や様子を伺いながら、日課や食事メニューを変更して中庭で食事をする等、柔軟な対応を実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間に遅れて食堂に来た利用者についても、職員は急がせることなく、ゆとりを持って対応していた。また、食事の後片付けができる利用者にはお願いし、職員と一緒に取り組んでいた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日を設けて、利用者一人ひとりに対応している。入浴を拒否する利用者に対しては、タイミングを計った声掛けを行うと共に、季節に応じて全身清拭や足湯等を行っている。入浴の拒否が強い場合は、家族の協力を得て温泉施設の利用も行っている。		家族との連携も含め、多様な入浴支援を実施しているが、浴槽が掘り込み式の構造であることから、今後もより利用者の安全に配慮しながら、継続して工夫や改善に取り組むことを期待します。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	四季折々のドライブや、大湯太鼓・花輪ばやしといった地域の祭りに出かけて楽しんだり、絵の好きな利用者が描いた作品を展示する等、その人に合わせた支援がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調を毎日観察しながら、本人の希望に沿うよう外出を促している。しかし、ADLの低下等が見られる利用者については、外出の機会を持つことが難しくなっている状況もある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中玄関に鍵はかけないこととしている。また、スタッフが手薄な時のために、玄関ドアが開くとブザーが鳴るように工夫されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画が整備されており、日中と夜間等の避難訓練を実施しているほか、災害時のスタッフの役割や連絡体制も明確にされている。また、消防署の協力を得て年2回の避難訓練を実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の中にはお茶や湯冷まし以外に、デザートとしてゼリーが添えられ、水分補給に配慮されていた。また、メニューや調理はスタッフが交代で行い、飽きがこないように努めていた。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2ユニットともに採光に工夫がみられ、心地良い空間づくりがなされている。また、ユニット間の廊下等にはイスやテーブルが置かれ、利用者の移動や休憩等の場面に活用されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の窓は大きく、明るい印象である。また、居室には思い入れのある絵や写真・鏡台・位牌などが飾られ、利用者本位の空間づくりが。ポータブルトイレのある居室もあるが、臭いもなく清掃と換気が適切に行われていた。		

は、重点項目。